

鳥獣対策は集落ぐるみで

縁側で干し柿を頬張り、葉っぱが少なくなった前山を見つめながら。

ハツイ：前山のモミジもだーいぶ落っこちたなや。

寅次：そだな。もうすっかり冬支度だあ。

ハツイ：そういや昨日、サルめがおらげの干し柿持ってく気んなつてたから、たーまげて追っ払っといたんだわ。

寅次：危ねがったなや。今頃食ってらんなかったかもな。

ハツイ：ぼっとすつと*サルめも食べ時が分かってんのかね。

寅次：そーかも知んね。

*ぼっとすつと：ひよつとすると



イノシシたちが集落に来たがるワケ

最近、のどかな農村に行くと良く見られる光景。サルがのんびりと畑で食事をしていたり、イノシシがほじくり返してボコボコになった畦畔。

少し前まではなかったはずなのに、どうして？なんで？ それには理由が・・・

ふらっと寄った集落や畑で、おいしいエサを食べられた！

おいしさを忘れられず、もう一度来てみる
→また、何事もなくエサが食べられた！！

里に来れば
簡単においしいエサがお腹いっぱい食べられる

学習

集落や畑につねに出没し、エサを食べるように



餌付け

発行：鳥獣新聞編集部（栃木県自然環境課内）

Tel.028-623-3261 FAX028-623-3212

ご意見、ご要望などお待ちしております。

無断転写、複製、転送、公開、掲示、配布など大歓迎！



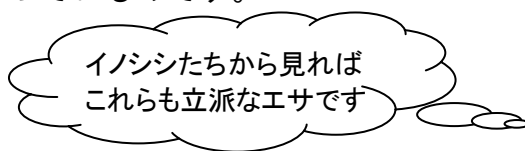
* 今回の記事作成には、農政部経営技術課に協力いただきました。

??イノシシたちのエサって?? 防護柵があるのにナゼ来るのか。。

イノシシたち野生動物は、食べることに必死です。動物たちにとって、エサとは畑のサツマイモや大根、稲だけではありません。農地周辺のススキやクズなどの雑草や収穫後のヒコバエ、畑のすみっこに放置した廃棄野菜など、人間にとっては、どうでも良いモノが恰好のエサになっているのです。



◆畑のすみこ
ほったらかしに
された廃棄野菜



▲耕作放棄地のススキやクズ

このようなエサが目前にあり、しかも食べ放題であれば、獣たちは**大切なエサ場として認識**するようになります。こうして集落に通い慣れているうちに行動が大胆になり、人の目を盗んで畑の野菜にも手を出すようになってきます。

対策するなら、みんなで一緒に ……☆それが地域ぐるみ対策☆…

鳥獣害対策の第一歩。それは、電気柵などで物理的に防御することも必要ですが、**イノシシたちにとって何がエサなのか、をキチンと認識**することです。

畑の野菜はもちろん、廃棄野菜や雑草など無意識の餌付けが集落をエサ場としている!!!と、いうことをみんなで一緒に勉強し、改善していくことが、とっても大切です。

出来ることからスタートし、仲間の輪を拡げていくことが、獣たちに打ち勝つ集落=獣害に強い集落への第一歩なのです。



▲マニュアルあります

【対策の順序】

みんなで学習 → みんなで実践 →

みんなで物理的防御（柵設置など）→ 数の削減（有害駆除）